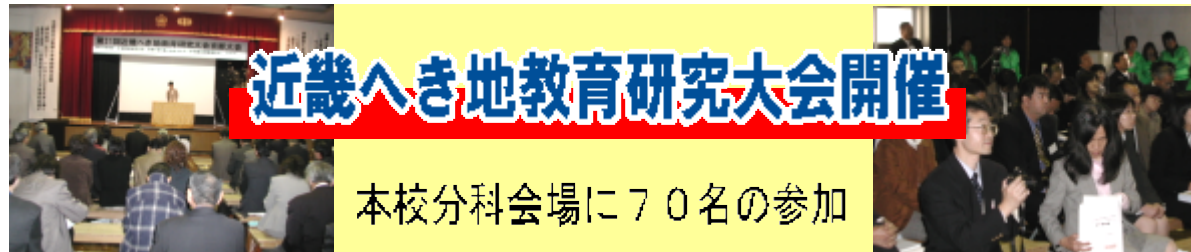


小野郷だより

No. 8

京都市立小野郷小・中学校 (TEL. 406-2341) 校長 森 由紀子



近畿へき地教育研究大会開催

本校分科会場に70名の参加



多くの参観者で埋まる小中合同授業

11月17日、本校で開催した研究発表会に、近畿各府県から70名の参加者が来校されました。

この研究発表会は、第21回近畿へき地教育研究大会京都大会分科会及び第2回京都府へき地教育研究大会及び京都市教育委員会指定みやこ学校創生事業報告会を兼ねて行ったものです。

研究主題に「夢の実現に向けて一人ひとりが生き生きと輝く教育の創造 ～児童生徒のキャリア発達を支援する教育実践を通して～」を掲げ、過去3年間の研究実践を発表しました。

朝早くからPTAの方たちにも受付や案内誘導係として応援いただき、9時30分の定刻

には無事開始することができました。

まず3つの会場で全学年が公開授業を行いました。5年生はテレビ会議システムを使って、他校の難聴学級と国語科の授業を、小学校6年生と中学校1年生は国語科で古典とふれ合う合同授業を、中学3年生は、「コンビニを経営してみよう」という社会科の授業を行いました。どの授業も、参観者が廊下にまであふれるほどで、活気ある授業が行われました。

その後、講堂で全体会を行い、まず子どもたちが、自分たちで作詞した曲「笑顔の記憶」を歌い、つづいて本校の研究報告と研究協議を行いました。参観者からは、「子どもたちが休校となる学校に思いを寄せて作った『笑顔の記憶』に強く感動した。」「どの授業もすばらしく、またどの子どもたちも生き生きとしていて、しっかり発言ができる。」「緻密な研究実践の積み重ねの成果が現れている。」「休校となるのは惜しいすばらしい学校だ。」など、たくさんの賛辞の言葉をいただきました。特に、「子どもたちがすばらしい。」という言葉に、教職員一同感激し、気持ち新たに奮起した一日でした。

保護者の皆様、いろいろとお世話になり、本当にありがとうございました。

懐かしさに涙 「ふるさと小野郷写真展」に多くの人



写真200点の展示会場



昔の写真を懐かしむ地域の人たち

ふるさとを見つめ直し、ふるさとの良さを再発見する契機になればと開いた「ふるさと小野郷写真展」、11月20日から4日間の開催期間に、70人の人たちが観賞に來られました。

地域の皆様のご協力もあって、会場には、200点余りの写真を展示することができました。展示は現在から昔にさかのぼる形で行い、「今の小野郷」は主として子どもたちと教職員の写真を、「昔の小野郷」は地域の人たちからの写真を展示しました。

観賞に來られた人たちは、子どもたちの作品の前では、「上手に撮っているな。」と、その表現に感心したり驚いたりしていました。平成の初めから明治にまでさかのぼる100点の写真の前では、一枚一枚を覗き込むようにじっくりと見たり、自分の子どもの頃の写真に、懐かしさの余り思わず涙ぐまれたりする姿もみられました。

子どもたちだけでなく、地域の人たちにも喜んでいただけたこと、学校として、

開催してよかったと思っています。

今回の写真展にご協力いただきました方々、大切な多くの写真をご提供いただき、本当にありがとうございました。

今回の写真展は、3月の閉校式の時にも再度開催したいと考えています。

12月は人権月間です

同じです

あなたと私の大切さ

12月6日(水)午後1時40分から、授業参観と懇談会を行います。人権と子どもたちとの関わりを、授業を通して共に考えてみたいと思います。ぜひご出席ください。

詳しくは、文書にて別途ご案内いたします。